

語り継がれてきた町並みに  
心とませ

気持ちゆたかに

癒しを感じ

人々の温かい心に触れる

訪れる人たちの心情を

さまざまな魅力に変え

白濁だから感じられる

楽しい旅が

あなたを待っています

# 白鳥

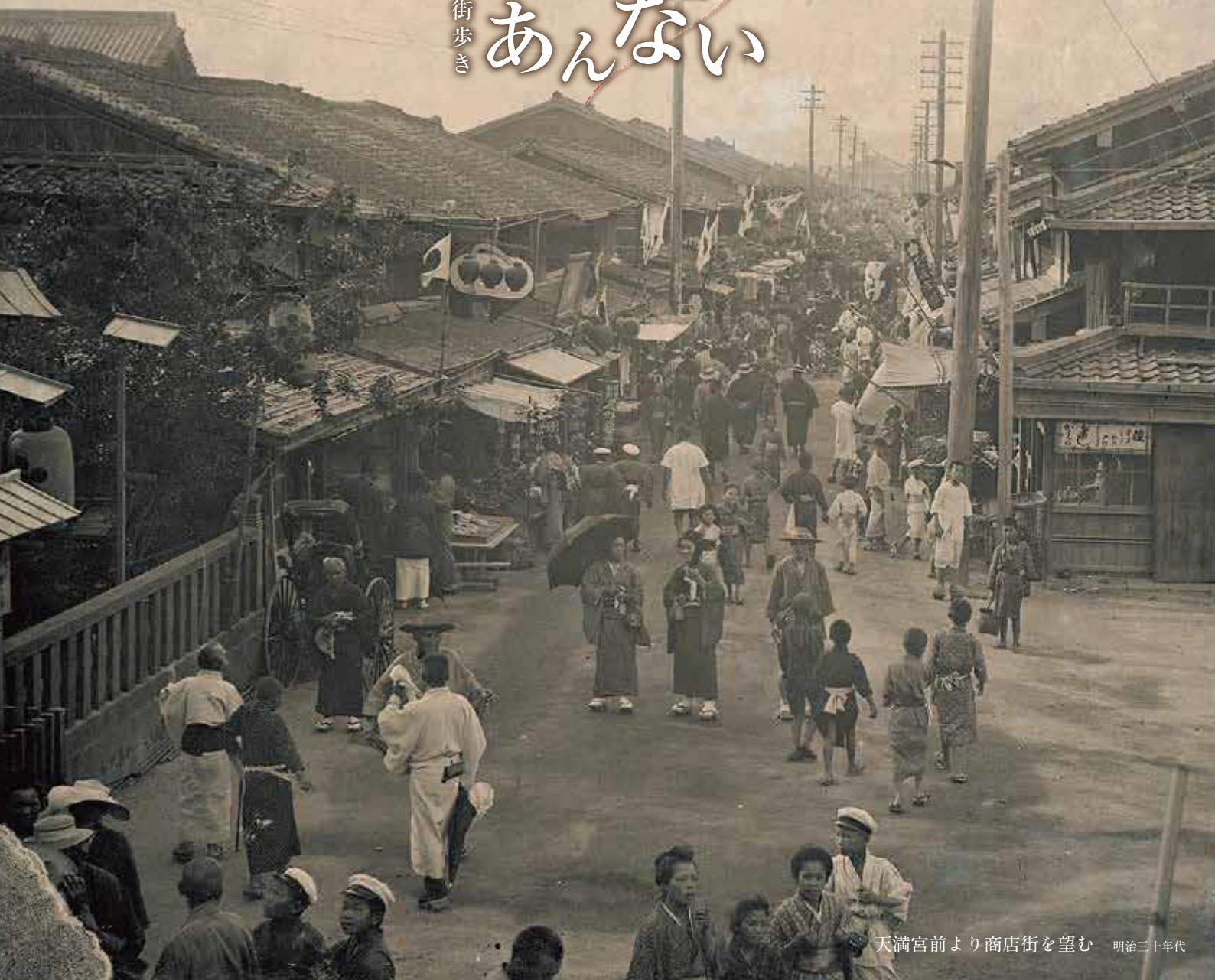
SHIRAKATA

歴史と文化に出会える

街歩き あんない

いにしえのかおる

懐かしき情景





このコースは、城下町当時の繁栄と町人の息吹を体感します。国産物の商いに従事した廻船問屋や豪商たちの住居とともに、庶民が歓楽遊興し、生活した裏長屋や小路を巡ります。



※●は現在その場所に現存していない建造物等を示しています。

基点：スティックビル 距離：1.5km／所要時間：1時間

大橋付近から売布神社にかけての大橋灘は、もともと漁師の家が点在する寂しい場所でした。築城後、松江の玄関口として舟の出入りや荷物の積み下ろしで大変な賑わいとともに、歓楽遊興の町となりました。売布神社は、航海の安全や商売繁盛の祈願に多くの人がとが参拝しています。

大橋南詰の八軒屋には、他国問屋、宿屋や廻船問屋、酒屋などを兼ねた「なんでも屋」がありました。

白濁本町通りは、森脇家（大森）を代表とする松江屈指の豪商たちが住んでいました。彼らは廻船問屋として国産品を主に大坂方面に送り、帰りは他国産品を買い付けて藩内で販売するなどして巨万の富を得ました。

本町通りからは、穴道湖にぬける多くの小路が残っています。かつての灘辺には豪商や廻船問屋の居宅や蔵屋敷とともに、奉公人や町人の住む長屋がありました。路地裏の生活は、夜明けより野菜売りや薪売りなどのかけ声で一日が始まりました。

こうした庶民の息吹が体感できるコースです。

# 一、水辺と廻船問屋を

## 巡るコース

古の賑わいと庶民の息吹の体感を

### コース周辺の オススメ SPOT

#### ウエダのワッフル 和多見店

松江市和多見町76 ☎0852-22-1203  
定休日／日曜日

カスタードクリームはしっとりとした味があり、大きさ・値段・甘さも手ごろです。

#### 山陰合同銀行本店ビル展望台

地上75mの展望台から松江市が一望出来ます。



# 白潟の息吹

爽やかな白潟の香りに包まれて

## ① ミオヤ小路

NHKの連続小説「だんだん」の松本そはやがあった通りです。中町（白潟本町）から穴道湖向かい歩みを進め「ヒコヤ小路」を抜けると「籠の鼻」と呼ばれる穴道湖の灘に当たります。

## ② 座頭小路

江戸時代に盲目の人たちの集会所があった所で、藩により生活は保障されていました。五代將軍綱吉公の頃に幕府が鍼灸・按摩などの医療活動への参加を許可しました。座頭小路は、今でいう福祉行政の先駆けを成す施設があった場所といえます。

## ③ 和多見町

この地は穴道湖岸や寺町より古くに形成されたと思われれます。地名の旧「和田見」の由来は「和田みゆるところ」つまり一帯が海である「和田津見」とする説があります。

## ④ 八軒屋町

この町の由来は、お城が富田から移城した際に八軒の他国問屋、八軒の宿屋があったからといわれています。それらは他国問屋、宿屋、酒屋などを兼ねていたようですが、主体は舟宿でした。他国者を警戒して、この地に限って他国者の宿泊を許可しました。そのことから、松江の玄関として栄えていたことを思い浮かべて下さい。

## ⑤ 籠の鼻

この場所は水の流れが速く土地が削られるのを防ぐため、挙大の石を詰めた竹かご（蛇籠）を沈めたのが地名の由来となりました。

## ⑥ 井戸（出世）小路

小路の途中に大井戸がありました。

多くの大商人や芸術家を輩出したところから出世小路といわれています。

## ⑦ 佐田屋小路

小路の入口には旧藩時代から船問屋と為替方の扱いを兼ねていた佐田屋六右工門の邸宅がありました。

## ⑧ 肥後屋小路

肥後国から移り住んだといわれる肥後屋がありました。広大な施設内にはハゼろうの製造から貯蔵までの施設があり、又廻船問屋として大きな利益をあげました。

## ⑨ 榎小路

小路の奥には一本の大きな榎と共に大井戸があり、荒神が祀ってありました。良水の井戸水は、豪商伊予屋や滝川家の酒水として、水桶を担った若者が朝早くから夜遅くまで行き来していました。近くの魚市場は出入りする人々で大変賑わっていました。



## ● 風流堂

（江戸期 廻船問屋 伊野屋）

明治23年創業のこの店は、大名好みの「山川」を復活させた老舗です。

7代藩主松平治郷（不昧公）が詠んだ歌の「紅葉の山」を「紅」で、山川の「水」を「白」で表現したと言われています。

現在は寺町本店（P11）

## ● 市民ギャラリー

山陰合同銀行は、本店施設を所蔵品のギャラリーとして一般に公開しています。昭和28年完成の際、地下には白潟の名の由来である白っぽい砂が掘り出されています。



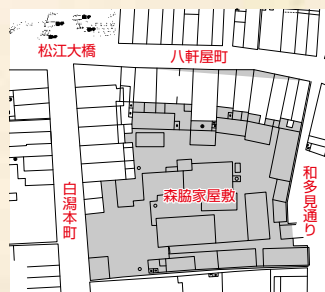
## ● 出雲ビル

昔の洋式風の姿をそのまま残している建物。

出雲益良がヨーロッパから帰国後に建築され、西日本一帯を対象とする醤油やビールの卸問屋として利用されていました。地下には松江初のサロンがあり、当時の洋風モダン文化の象徴的存在でした。大正14年4月落成。

## ● 森脇家（大森）

江戸時代に大きな廻船問屋を営んでいた「森脇家（大森）」の屋敷がありました。アーケードの通りを含んで、土地の所有者は変わっていません。新屋や肥後屋と共に、「ろう」を大坂方面に運ぶ藩の御用廻船問屋として発展しました。



## ● 売布神社

「出雲風土記」にもその名のみられる古代からのお社です。

中世以降は、別名「白潟大明神」「橋姫大明神」とも称され、一般の人々からは、親しみをこめて「白潟さん」「橋姫さん」と呼ばれていました。



## ● 源助の碑・深田技師の碑

源助は、大橋架け替え工事に際し、水神の怒りをなだめようと人柱となりました。おかげで工事は順調に進んだといわれています。

深田技師は、昭和の架け替えの際、現場で指揮をとっていましたが、事故で犠牲となり昭和の人柱と言われています。人々は感謝と親しみを込めてこのふたつの碑を大切にしています。



このコースは、出世稲荷、出世小路等、開運や出世にご縁のあるところが多くあります。山陰合同銀行の最上階より、白潟の街を見ながら大きく夢をふくらませて下さい。



基点：スティックビル 距離：1.4km／所要時間：1時間

※●は現在その場所に現存していない建造物等を示しています。

白潟本町を中心とする一帯は、松江開府に際し町人の町として町割りされ、以来近年まで豪商が軒を連ねる経済産業の中心地として栄えてきました。一帯に残る小路名には、こうした大豪商の屋号を冠したものが多く、中でも他国名の屋号が多いことが目を引きまします。そしてこの地には、広大な屋敷跡と共に多くの地蔵さんや観音さんが見られ、海運水運の利を駆使し全国に名を轟かせた大商人の願いや苦勞、生き様等にも触れることができます。

出世稲荷や久成寺の村上喜一郎の墓、山陰合同銀行脇の出世小路等、開運と出世のおかげのある場所を多く巡ることが出来ます。

## 耳よりな情報

★松原祥子著「新屋太助の日記を読み解く」～新太保恵日記～（刊行 松江市教育委員会）なる本が出版されました。これは、江戸中期「新屋」に奉行した「太助」の日記を紹介したものです。当時は「おかげさまで」の言葉が頻繁に使われ、当時の町の様子や庶民の暮らしと共に、あつい信仰心をうかがうことが出来ます。

★その昔、榎小路には榎荒神が祀られあつい信仰がありました。現在は天神さんの境内にある厳島神社の横に祀られ、今も大切にされています。

★山陰合同銀行本店ビル展望台…地上75mの展望台から松江市が一望出来ます。



# 二、商売繁盛と開運のおかげコース

信仰と努力



# 白潟の心音

いにしえの人々のささやき  
ざわめきが聞こえてきそうです

## ⑧出世稲荷神社

祀られているのは開運出世・商売繁盛・安産・学問の神様です。

出世稲荷の名称は、この稲荷に信心あつた人には成功する人が多く、自然にこの社名が広まりました。



## ⑨善導寺

総本山知恩院の直末寺。松平直政公に従って信州松本からこの地に移転しました。境内には地藏堂と稲荷神社が祀られています。

地藏堂には乳護地藏と咳地藏、名工荒川龜斎作の白狐一対が納められています。



## ⑩久成寺

文明年間（1469～）に安来市広瀬町に開創され、慶長12年（1607）堀尾吉晴公松江開府の際、現在地に移りました。境内には「日本のスポーツの父」岸清一博士と「打出の小づちを振る男」と言われ、藩財政改革に功のあった村上喜一郎の墓があります。



## ⑪長満寺

天正5年（1577）広瀬に開創され、慶長年間（1600）に松江の現在地に移りました。

境内には小泉八雲と親交の深かった松江中学教師、西田千太郎の墓があります。また名工小林如泥作と言われるはしが保存されています。



## ⑫梅 謙次郎生誕の地

瀬町に生まれ、フランスのリヨン大学で法学を修め、論文「和解論」により博士号を取得しました。帰国後、民法・商法等の法典制定に力を尽くし、東京帝大法科大学長、法政大学初代総理、法制局長官など歴任し、わが国の「民法の父」と称されました。

明治43年（1910）ソウルで没しました。



## ⑬第15代松江大橋

この橋は、明治24年に文明開化の影響を受けて、白いペンキ塗りの鉄製トラスト橋でした。市民には珍形大橋として評判が悪く、当時松江にいた小泉八雲も木製の古い橋を懐かしみ、大橋にまつわる伝説を紹介しています。



●西田千太郎  
松江中学教師。小泉八雲を支え、彼の残した日記は八雲研究の貴重な資料となっています。



村上喜一郎の碑を3回なでるとご利益があるといわれています。

●村上喜一郎（舎喜）碑  
舎喜は号。松江藩家老小田切備中尚足の家来でしたが、その才を買われ松江藩士となりました。藩財政の立て直しのため泉府方の設置を進言、御趣向の改革（一七四六）、御立派の改革（一七五〇）を通して「金融のエキスパート」として腕をふるいました。松江大橋改築工事では初めて自国の工人に行わせるなど、商才に長けた理財家でした。

●岸清一博士  
松江市雑賀町生まれ。旧藩士の奨学金で東京帝国大学法科を卒業し、代言人（弁護士）を開業。主として民事、特に外国人の訴訟事件に優れた業績を残しました。日本の近代スポーツを世界の檣舞台に乗せ、日本のクーベルタンと呼ばれました。



●咳地藏  
昔この地の戦いで、敵に身を隠していた武士が咳が原因で見つかり命を落としました。人々はこの武士を厚く弔うと共に、その後咳で苦しむ人々を救う地藏として建立しました。



## ⑭伊予屋小路

スティックビル南側の通りです。松江開府時代に四国伊予国から移って来た豪商、伊予屋とその借家がありました。明治時代に通信所がありました。

## ⑮井戸（出世）小路

小路の中程に大井戸がありました。多くの大商人や芸術家を輩出したところから出世小路といわれています。

## ⑯肥後屋小路

肥後国から移り住んだといわれる肥後屋がありました。広大な施設内にはハゼろうの製造から貯蔵までの施設があり、又廻船問屋として大きな利益をあげました。



## 三、地蔵さん巡りコース

健康と安らぎを求めて

このコースは、水運で栄えてきた白潟の人びとの「おかげさま」の心に触れることができます。



基点：スティックビル 距離：1.4km／所要時間：1時間

白潟には地蔵さん、地主さん、御輪さん、荒神さん、観音さんが小路のあちこちに点在しており、その言い伝えには築城以前のものも多く残されています。

「地主さん」は、多くは人家の裏庭や小路の奥に、ほとんどは苔むした墓石か御輪とよぶ丸い自然石です。本町、魚町周辺に多く見られます。

地蔵さんは一尺ばかりのものが多く、場所は灘辺に限られており湖から漂着したものが多いといわれています。

御輪さんは丸い石を積み上げてあり、武将の墓という伝えがあります。

### 耳よりな話 昔の湖岸を歩いてみませんか

- ① 新丁裏小路 文政年間 (1800年代)
- ② NHK 前道路 明治の中頃
- ③ 公民館西側道路 明治の初め
- ④ 寺津屋前通り 昔の天神川河畔
- ⑤ 新会館外構の石積みは江戸時代の護岸石





# 白潟の真心

白潟の心  
向こう側に見える  
歴史の重みを感じ  
味わう場所

## ①花屋小路

佐田屋小路の向こう側、出雲ビルの脇です。ここには4、5軒ばかり2階建の家が並んでいました。この中ほどに地主神が祀っており、昔は地主講もあって賑わっていました。

龍昌寺の前身竜吟庵建立した角新七（花本氏）にちなんで名付けられました。

## ②佐田屋小路

ここは海士頭佐田屋仁左工門の借家が16、7軒あったことから名付けられました。小路の入口には、舟問屋と為替方の扱いを兼ねていた佐田屋の邸宅がありました。

## ③来海屋灘通り

灘町と魚町との境界にあります。

ここは諸国の陶磁器を積み入れ、さらに出雲の陶磁器を積み出す場所でした。

木材や来待石材の置場と共に、穀類等の倉庫もあり、随分にぎわった舟着場でした。

## ④三味線小路

入口北角に亀井三味線屋の借家が10軒ばかりあったことから名付けられた小路です。

## ⑤玄関小路（佐姫通り）

浜小路の北側2軒目から北へ入り折れる小路です。入口北角に梅謙次郎博士の旧宅があり、同家の玄関の横出口が小路の入口にあっていたところから名付けられました。

## ⑥菅井屋小路

本町にあった米穀商菅井屋が借家をもっていたところから名付けられました。

## ⑦来迎寺小路

白潟天満宮のすぐ北側にある来迎寺の入口が面した通りです。地藏祭りや和霊さん、天神さんの祭りにはところ狭しと屋台が並び賑やかでした。



いちばたやくし  
A 一畑薬師

肥後屋小路の湖岸側に、一畑薬師があります。かつて肥後屋の中庭にありました。

宝殿花立燈籠や、一丈ばかりの巨大な石燈籠もあります。



なだまち さ ひめど  
C 灘町佐姫通り地藏尊

6坪程の土地に地藏6体、観音1体、三宝荒神が祀られて随分にぎやかでした。

地藏さんは、あちこちから合祀されたもので人々は平素から清掃や献花を絶やしません。1月と8月に盛大に祭りが行われています。



なだまち い な り だいみょうじん  
E 灘町稲荷大明神・番匠祖神社

お稲荷さんは、もと肥後屋の地主神でした。子供の大好きな神様です。火除けに靈験あらたかで、火除稲荷大明神ともいわれます。番匠祖神社は、大工職の祖神です。両社は明治後期、売布神社に合祀されました。その後、二度にわたる灘町大火があり、人びとの強い願いから昭和43年に今の場所に遷座されました。

## G おかげ天神

白潟天満宮の境内にお祀りされています。おみめぐいで頭を撫でることにより、ぼけ防止にご利益があるといわれています。



き まち や なだ  
B 来海屋灘の地藏堂

開府前から祀られていた地藏さんです。明治17年頃人びとの願いにより、現在の地に移転されました。

3体のうち中央の地藏さんは、宍道湖からあげられたといわれています。



さんぼうこうじん  
D 三宝荒神

かまど、水、家の守り神が三柱で三宝荒神といわれています。

神木の榎は、荒神さんとお地藏さんの間にあり、藁の「くちなわさん」が供えてあります。灘町大火の際は、三宝荒神の辺りで火の向きが変わり、荒神さんと共に周囲の家々も助かりました。又、幾度の水害にも浸水を免れ、人びとは有難い神様として大切に祀っています。



しらかたてんまんぐう  
F 白潟天満宮

通称「天神さん」と呼ばれ、この神社の縁起は悪七兵衛景清が、富田城中に菅原道真廟を建てたことに始まり、のち堀尾忠晴が慶長12年(1607)、富田(安来市広瀬町)から松江へ移城の際、この地に勧請されました。それ以後、歴代松江藩主の尊崇を受け、庶民の間でも学問の神様として広く信仰されています。









#### ㉔ 人参方

この地には、1825年、薬用人参の生産と販売を行う人参方役所が設けられました。製品は貿易港の長崎に送られて清国に輸出され、鉄やろうとともに藩財政に潤いをもたらしました。多額の売上げは、幕末の軍艦八雲丸や武器の購入に充てられました。

この近くには、日光から人参の栽培技術を学んで帰った小村茂重が祀った幸神社（猿田彦命の祭神）、久志母神社（葉の守り神）があります。



#### ㉕ 勝木軍庵・小林如泥生家跡

藩主不昧公は小林如泥の作品を大変気に入り、江戸屋敷では如泥の作品を来客に自慢して見せたそうです。

更に宍道湖岸に並ぶ如泥石で地元にも沢山の作品を残しています。この地で生まれたもう一人の名工に蒔絵師・勝木軍庵光英がいます。椀、茶箱、香合などの作品は、江戸表でも高い評価を受けました。



#### ㉖ 番匠稲荷（灘町大明神）

大工職人が富田城時代から崇拝していた祖神で、いわば匠の神様です。一時、売豆神社の境内に移されていましたが、白潟大火の後に、白潟住民の希望を受けて現在地に戻りました。



#### ㉗ 家老三谷家の下屋敷

三谷・神谷家は代々松江藩の家老職を勤めて、それぞれの下屋敷がありました。武家と町人町とが混在して相互に交流があり、町人にとっては身近な家老さまでありました。

#### ㉘ 半平灘通りと如泥石護岸

横浜や白潟の地は、今まで何度も湖岸が埋め立てられました。湖岸は灘と呼ばれる舟着き場で、近隣で生産された穀物、野菜などを積んだ舟などで賑わいました。さらに湖岸には沢山の如泥石が並べられており、現在の横浜では、溝や石垣の下などにその姿を見ることが出来ます。



## 白潟の芸術

白潟が生んだ

芸術家達の想いを感じられる場所

#### ㉙ 袖師焼

初代尾野友市が、明治10年松江市上乃木に開窯。二代目岩次郎が袖師浦の現在地に移しました。三代目敏郎は島根を視察に訪れた柳宗悦に認められ、次に河井寛次郎、英人バーナード・リーチ氏等の指導を受け民芸陶器の窯として広まりました。

昭和33年ベルギーのブリュッセル万国博でグランプリを受賞。

主な製品は、花器、茶器、酒器、和洋食卓用品などです。



#### ㉚ ふそう方（釜甑方）

松江藩では、藩財政の収入源として国産品の生産と流通を統制し、鉄鋳物を生産するふそう方を設けるとともに、鍋、釜、釣鐘、農具などの商品化をはかり財政の強化に努めました。

#### ㉛ 澤野修輔と「培塾」

文政11年（1828）

雑賀町で生まれ、内中原の儒学者雨森精翁に学び儒学を身につけました。江戸の昌平黉へ学び、帰郷して私塾「培塾」を雑賀町に開きました。教え子には若槻礼次郎、岸清一、梅謙次郎などの有名人がいます。



#### ㉜ 大工町

大工町は松江築城の際、富田城下より随行してきた大工18名の屋敷があった場所です。江戸時代中期に活躍した、名工「小林如泥」はこの地に生まれています。



#### ㉝ 玄丹お加代と鳴玉楼

松江藩士の娘として生まれた「玄丹お加代」は、目を病んだ父を助けて芸妓となりました。幕末に西園寺公望などの鎮撫使一行が来松した折には、豪放で狭義心の強い性格で一行を接待して、藩を難局から救いました。

灘町の湖岸には、かつて「お加代」が活躍した料亭の「鳴玉楼」がありました。



#### ㉞ 白潟公園

白潟の町から湖岸に出ると、この公園から宍道湖に浮かぶ嫁ヶ島を西に望めます。松江開府以来、湖岸が何度か埋め立てられて、昭和47年に現在の湖岸線になりました。

水辺と美術館が融和し、憩いの場として多くの人々から親しまれています。

宍道湖に沈む夕日を見ながら自然を散策できる最適のコースです。

## 職人の手わざ耳よりな話

#### 〆 中屋万年筆店

松江市天神町83-1

☎0852-21-2049

知る人ぞ知る万年筆販売・修理・調整の名店



# 五. 和菓子とお茶の文化巡りコース

明治の世 お茶と和菓子文化再興の地

このコースは、藩主や士族、富裕層などにより育まれた和菓子とお茶の文化を見ることができます。明治になって一時衰退しながら、地元文化人の支援と職人達の努力により再興した街を巡ります。

松江藩では松平治郷（不昧公）（1751～1818）の頃に100品を超える菓子がつくられています。とりわけ不昧公縁の「菜種の里」、「山川」、「若草」は、自然の風情と融合した松江和菓子を代表するものとなり、主に士族や白濁・末次の富裕商人等が食したと思われます。

その後、廃藩による城下町の衰退とともに、銘菓は姿を消していきました。

明治になって、不昧公時代の菓子で最も早く復元されたのが羊羹です。小泉八雲も味わい、妻セツはしばしば進物用に購入したといわれます。

明治後半には、山川や若草の銘菓が、茶の湯文化を愛する風流人の集まり「どうだら会」の働きかけにより復活されました。これは住民の中に深く文化意識が熟していたためと思われます。

大正から昭和初期には、不昧公百年忌、全国菓子共進会の開催などを通じて、「松江和菓子」の名が京都や金沢等とともに全国に知られるようになります。



※●は現在その場所に現存していない建造物等を示しています。

基点：スティックビル

距離：1km／所要時間：40分



# 白濁の銘所

白濁ならではの昔ながらのお店や和菓子の歴史や伝統が息づいており、当時の町並みが立ち並ぶ古町を代表する場所です

## ① 山川

日本三大銘菓の一つといわれています。「茶禪不昧公」の中で「秋は山川」と記載されており、もち米で作った寒梅粉と砂糖を混ぜた少し塩味の落雁で、紅白二種類あり、紅は紅葉、白は水をあらわしています。



お買い求め先  
風流堂  
寺町本店 住所／松江市寺町151  
電話／0852-21-3241

## ③ 菜種の里

寒梅粉と砂糖を使ったしっとりとした落雁で、鮮やかな菜の花の色に焙じた玄米を散らし、菜の花畑に舞う白い蝶を模しています。家老の命により面高屋新四郎が作り不昧公に調進したといわれています。



お買い求め先  
三英堂  
住所／松江市寺町47  
電話／0852-31-0122

## ⑤ 腰高おぼろ饅頭

不昧公が好んで茶席に出したお菓子です。公生誕二五〇周年を記念して開催されたお茶会の際に、不昧流大円会の先生方と共に復元されました。



お買い求め先  
桂月堂  
住所／松江市天神町97  
電話／0852-21-2622

## ⑦ 若草

仁多産のもち米で作った求肥を芯に、若草色の寒梅粉をまぶしてあります。不昧公は春の茶席に好んで用いたようです。初春から晩春へと緑色を変化させ、季節の移ろいを表しています。



お買い求め先  
彩雲堂  
住所／松江市天神町124  
電話／0852-21-2727

## ② 龍昌寺

十六羅漢で知られる龍昌寺には、小泉八雲も興味を示した石像があります。これはある白濁商人が娘の菩提を弔って建てました。最初に作られた顔は荒川亀斎の作で、小泉八雲記念館に保管してあります。



## ④ 常教寺・八角堂

本堂東西の欄間彫刻は荒川亀斎の作。名工小林如泥の菩提寺。如泥の百年忌（大正元年）に東京美術学校から贈られた記念碑があります。



## ⑥ 小原光雲生家跡

松江の小原流初代家元雲心の長男。名は光一郎。明治二年（一八八九）大阪に旅立った父雲心に呼び寄せられ、二五歳から生け花の道に入りました。その後、日本初の盛り花展を百貨店で開催する等、一般大衆に生け花を浸透させました。



明治13年（1880）  
～昭和13年（1938）  
小原流生け花二代家元

## ⑧ 抹茶中之白

松平不昧の城下で、人々に愛されたお茶は四季折々の生活の中で大切に育まれてきました。一七九六年、不昧公が中之白と命名、先々代が明治後期に復元されました。



お買い求め先  
中村茶舗  
住所／松江市天神町6  
電話／0852-24-0001

## ／松江の和菓子

松江の和菓子は、全国的に有名なものが沢山あります。天下の三大銘菓と称される「山川」を筆頭に、「若草」「菜種の里」等と松平不昧好みの銘菓が現在まで伝えられています。そのほかに「八雲小倉」「黒小倉」「路芝」「柚餅子」など枚挙にいとまがありません。

種類の多さは、茶の湯が盛んなことと、微妙な味を利き分けられる繊細な感覚を持つ人々の住む土地柄にあります。

味は抹茶に合わせるため甘味が強いものが多いが、最近は客の嗜好の変化に合わせて甘みを控えめにしています。

## ／松江のお茶

松江のお茶を語るのに必ず出てくるのが不昧公（七代藩主治郷）です。形式にこだわらず茶の湯を楽しんだ不昧公なくして松江の庶民にお茶文化は根付かなかったようです。

また、天下の名器が散逸することを見かねた不昧公は、茶道具の収集を積極的に行いました。

さらに、美術を愛好した不昧は、茶道具に限らず工芸品の制作を保護し奨励し、著名な職人と多くの作品を輩出させました。



# 六. 神仏巡りコース

## 心の散歩道

このコースは、白濁が誇る多くの神社仏閣を巡ります。いずれも古い歴史を持ち、信仰篤い人びとの心のより所として大切にされています。

この地区には大きな神社が三つあり、二十八のお寺が集まっています。お寺には松江開府の際広瀬富田城下から移された寺、開府以前から現在地にあったお寺、開府時に新しく建立された寺などがあり、歴史探訪にも見ごたえのあるコースです。



※●は現在その場所に現存していない建造物等を示しています。





### ③ 白潟天満宮

学問の神（菅原道真公）

保元年間、広瀬富田城内に建立され、松江築城の際、堀尾氏によって現在地に奉遷されました。以来、地名から白潟天満宮と称され歴代藩主に崇敬されました。明治以後は「学問の神」として庶民にも親しまれ今日に至っています。本殿南には小林如泥作といわれる巖島神社があり、西には榎小路から移された榎荒神が祀られています。



### ② 出世稲荷神社

開運出世、商売繁盛、五穀豊穡、安産、他に文武、水運、病氣平癒の神

もとは松江城のある亀田山にありましたが、堀尾氏築城の際、松江の守護神として藩細工所（現在県民会館）にお祀りされました。明治に民有となり現在地に移りました。松江三大稲荷（石橋町・児守稲荷、東本町・船玉稲荷）の一社で、信仰する人々には出世する人が多いということで評判になりました。



### ① 売布神社

水戸の神・祓戸の神

「出雲風土記」に名のみられる古代からのお社で、白潟全域の氏神様です。人々は、「白潟大明神」や「橋姫さん」と親しみを込めて呼んでいます。境内には、名工「小林如泥」「荒川亀斎」の彫り物や絵馬が納められています。

## 白潟の誇り

歴史と自然溢れる古寺、古神社

古代人の誇りが感じられます



### ⑤ 長満寺 日蓮宗

天正5年（1577）広瀬富田城下に建立。松江開府に際し現在地に移転しました。

境内には、小泉八雲と生涯親交の深かった松江中学教頭で英語教師「西田千太郎」のお墓があります。又、名工「小林如泥」作のはしがが保存されています。



### ④ 慈雲寺 日蓮宗

天正2年（1574）広瀬富田城下に建立。松江開府に際し現在地に移転しました。藩政時代は士族の寺で格式ある特別の寺とされました。庫裏は母里藩下屋敷が移築されたもので、鴨居や引き戸には美しい菱紋が当時を物語っています。



### ⑥ 西光寺 真宗

もと常陸国で、親鸞聖人の直弟子の唯円が開祖。室町時代に時の住職が川津市成に移し、その後堀尾氏開府に伴い現在地に移りました。境内には名大関「雷電為右衛門」の墓があります。



### ⑧ 善導寺 浄土宗

知恩院の末寺。松平直政公に従って信州松本からこの地に移転しました。境内には地藏堂と稲荷神社が祀られています。

地藏堂には乳護地藏と咳地蔵があり、境内の稲荷神社には荒川亀斎作の白狐一対が納められています。



### ⑨ 本龍寺 真宗

もと広瀬富田城下にありましたが、松江開府の際堀尾氏に従い現在地に移りました。豪商岡崎屋の菩提寺。本堂は岡崎屋の建立、道路からみえる破風の龍彫刻と本堂正面の彫刻は、野中銀七（小林如泥の弟子）作と云われます。



### ⑪ 誓願寺 浄土宗

広瀬町富田にあり、堀尾氏の菩提寺。松江開府に際し現在地に移転。堀尾吉晴の寄進で建てられました。元禄年間火災により全焼しましたが、時の上人により再建され今日に至っています。楼門は時の藩主松平吉透が再建、昭和の始め修理不能となり現在の門が作られました。



### ⑩ 常教寺 日蓮宗

永享6年（1434）雑賀町に建立。松江開府に際し現在地に移転しました。鐘樓堂欄間彫刻は荒川亀斎14歳時の作。本堂の切妻の彫刻は荒川亀斎の手により、今も道路から堀越しに見ることが出来ます。名工「小林如泥」の菩提寺です。



### ⑫ 全龍寺 曹洞宗

堀尾開府以前に開かれたお寺です。何度かの火災にあっていますが、総石作りの秋葉大権現は唯一火災から免れた小祠です。白潟輩出の俳人「山内曲川」の菩提寺です。



### ⑬ 龍昌寺 曹洞宗

足利時代、湖から発見された十一面観音像が、湖畔近くの花屋敷に安置されました。堀尾氏開府に従い、文明五年（1473）現在地に移り龍昌寺となりました。ラフカディオ・ハーンが非常に興味を示した石地藏や16羅漢があります。



### ⑭ 久成寺 日蓮宗

文明年間広瀬富田城下に建立。松江開府に際し現在地に移転しました。境内には「日本スポーツの父」岸清一博士と「打出の小槌を振る男」と言われ藩財政改革に功のあった村上喜一郎の墓があります。石碑に手を合わせ、ながらご利益を頂かたらいかがでしょう。



# 七. 美術館と

## 湖の四季を楽しむコース

このコースは近代的な美術館や親水湖岸・公園を歩きます。約四百年前、城下町が形成された頃に人びとも目にしたのであろう穴道湖の風情を楽しんでいただけます。湖面に映える美術館から北へ、白潟公園を歩いて自然美を満喫しましょう。

♪ 自然美と  
風情にひたる



基点：穴道湖うさぎ（県立美術館付近の湖岸）

距離：1km／所要時間：40分



## 【夕日を楽しむ（夕日コース）】



沈んでいく真っ赤な太陽と共に、刻々と変化する湖面や山々に雲。

宍道湖の夕景は、見る場所や季節により違う表情を見せてくれます。

湖岸の小路から見る夕日もいいものです。時空を越えて古の人々と思いを共有できそうです。風情をお楽しみください。

## 【散策を楽しむ（昼間コース）】



美術館周辺から宍道湖大橋へ、湖面を渡るさわやかな風を感じながら、美しい宍道湖や嫁が島の景色を楽しんで下さい。周辺には昔ながらの小路や蔵、地藏さんや燈籠などがあり、かつて栄えた町屋の姿を想像しながらゆったりと時間を過ごして下さい。

## 【霧の宍道湖を楽しむ（朝霧コース）】



季節限定

冬季限定です。放射冷却現象で気温が急に下がった日の朝、宍道湖は深い朝霧に包まれます。「霧のまち松江」の幻想的な風景をお楽しみください。「宍道湖の風物詩・しじみ漁」が行われる日であれば、霧の中から突然現れる舟の姿は絵になる風景です。

# 白潟の風情

白潟の人びとが継承してきた景色の一つ一つが意味を持ち、当時の風情を思い起こさせてくれます



### ⑤ 玄丹お加代胸像

松江藩士の娘として生まれたお加代は、目を病んだ父を助けて芸妓となり、幕末に鎮撫使一行が来松した折り、一行を接待し、藩を難局から救いました。



### ⑥ 嫁ヶ島

宍道湖唯一の島。島の西側には弁天さまを祀る竹生島神社があり、東側に鳥居、さらに、30本ばかりの松が風情をそえています。悲運の若妻の伝説から嫁ヶ島の呼び名になりました。

### ⑦ 袖師地蔵

その昔、嫁ヶ島沖は潮の流れが速い難所であって、ここを通過する舟は度々遭難し、この水難を供養するために建てられたと伝えられています。来待石の袖師地蔵は高さが2.5m。一回り小さい御影石製の石灰地蔵です。



### ⑧ 宍道湖のしじみ

宍道湖でとれるしじみは大和しじみです。操業は月、火、木、金曜日に限られています。全国の総漁獲量の4割がとれます。



### ① 宍道湖うさぎ

島根県立美術館の少し湖畔よりの芝生へ足を運ぶと、縁結びスポットとしても人気の12匹の「宍道湖うさぎ」がいます。湖から2番目のうさぎに、西を向きながら触ると幸せが訪れるという噂が広まり女性ファンが急増中です。



### ② 湖岸の如泥石

湖岸が波で浸食されるのを防ぐため、名工小林如泥が考案したと云われています。臼状の来待石の表面に溝を彫り、運びやすく消波に役立つようになっています。白潟公園夕日スポットや横浜町半平灘通りの溝で見ることができます。（現在はじょでいとも言われています。）

### ③ 夕日スポット

国道9号線に沿った白潟公園の湖岸にあります。天気の良い夕方には嫁ヶ島とともに茜色に染まる美しい夕日が見える絶景ポイントです。



### ④ 青柳楼の大燈籠

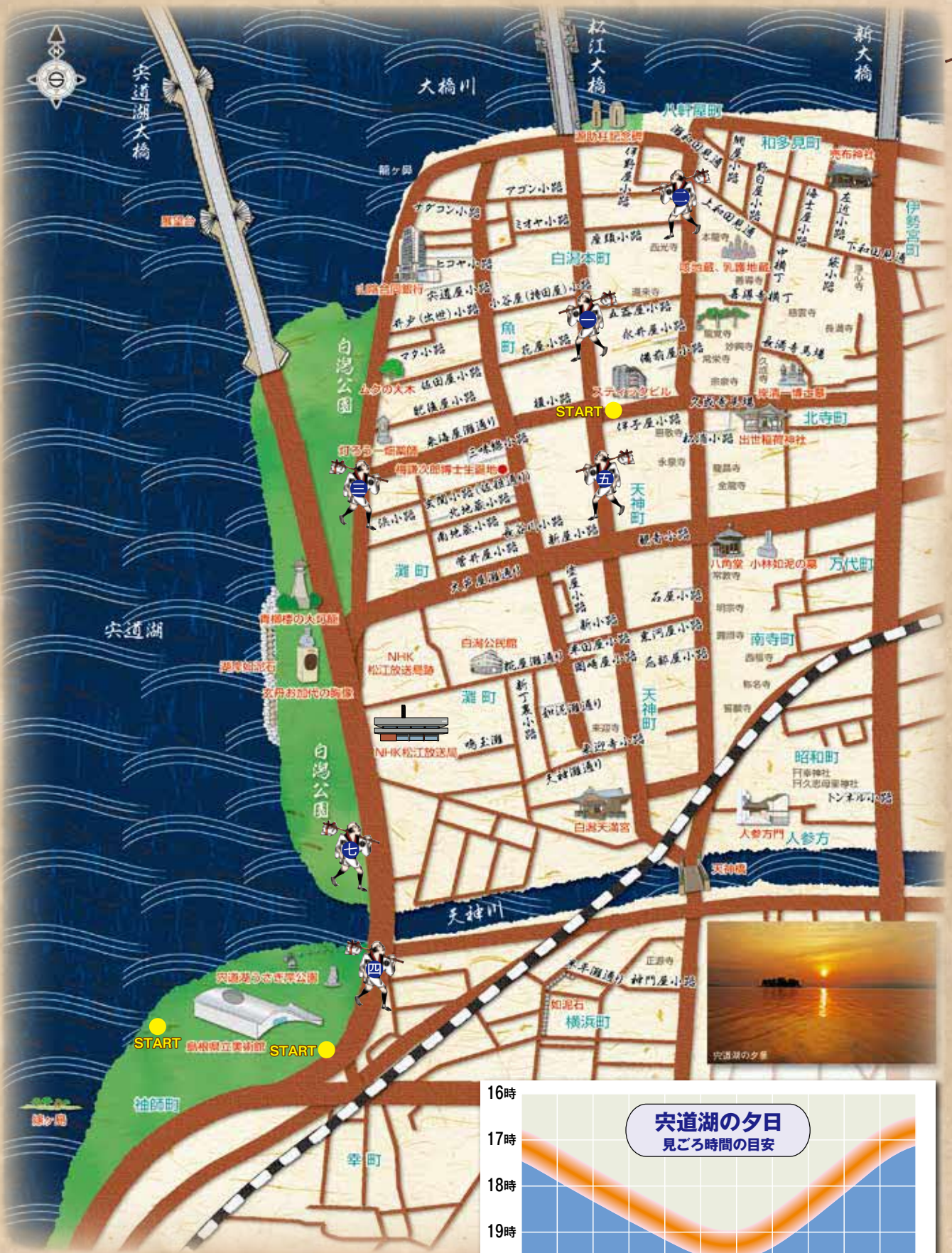
明治初期、庶民の遊興地であった天神裏の青柳楼の庭に立っていました。当時は宍道湖の波打ち際にあり燈台の役目を持っていました。隣には俠女玄丹お加代が芸妓として働いていた鳴玉楼がありました。



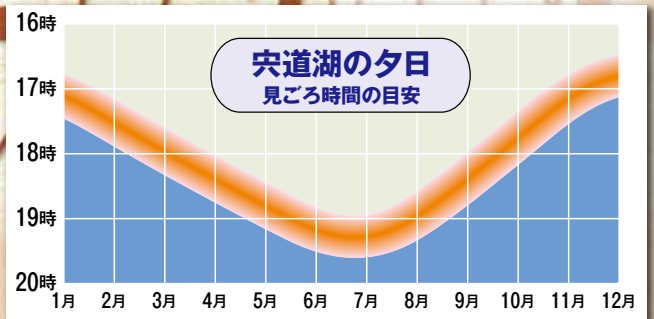




あなたはどのコースを選びますか



尖道湖の描き方は堀尾時代の画法



#### おわりに

白湯の地は、社寺地、町人地、遊興の地などに分かれて、その間を沢山の小路や横丁で結ばれています。町には、江戸期に栄えた大店、路地裏に残る地蔵さん、町人が日々利用した共同井戸などの跡もあり、当時の人びとの喜怒哀楽に思いを馳せることができます。

本書が発行された当時から町の様子は変わり、今後も大橋川改修に伴い大きく変貌していくことでしょう。本書はすでに存在しなかったり場所が変わったりした建物やその記載があることはご容赦ください。しかし白湯の住民が結集し、「わがとこの歴史を学び、後世に伝える」成果として作成された本書が、いつの時代にあっても、町を自分の足で歩こうとする方々を、白湯の魅力溢れる楽しい旅にいざなってくれるものと信じてやみません。

#### 白湯まちあるき委員会

平成22年10月24日 発行  
令和5年11月1日 改訂

〒690-0065 松江市灘町1-57 白湯公民館内  
TEL (0852)22-7147

印刷 黒潮社  
(無断複製禁止)